

第2学年 総合的な学習の時間×特別活動 学習指導案

山形市立第十中学校 教諭 齊藤 夢月

1. 単元名 「社会人って何？」

2. 単元の目標

- (1)職業には様々なものがあること、職業を選ぶ価値観にも様々なものがあることを理解できるようにする。また、どの職業においても、人と人との関わりや職業どうしの関連が欠かせないことを理解できる。
(知識および技能)
- (2)「社会人とは何か」を考える上で、どんなことを知りたいのかを明確にし、誰に聞けば、何を調べれば課題を明確にできるのかを見通すことができる。また、収集した情報をもとに、いろいろな職業や社会との関わり方、社会貢献などについて、特徴を見出したり、一般化したり、比較して、さらに探究したい点を見出したりできるようにし、学習前後の自分の変容と、その根拠がわかるようにまとめることができる。
(思考力・判断力・表現力)
- (3)将来社会人になるにあたり、自分の強みや改善点を把握し、他の人の考えを受け入れることができる。また、実社会と実生活との関連を見出し、自己の生き方を考え、夢や希望を持つことができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

2学年終了時に目指す姿として、①社会人の役割や価値観について、自分なりの定義を持ち、発展させることができる。②SDGsの視座を持って、社会人として果たすべき責任や行動を考えることができる。③地域・高校生との交流を通じて、多様な社会人像に触れることができる。④自分の将来像と社会とのつながりを意識し、行動につなげることができる。 という4つの目標を掲げてカリキュラムを作っている。②③においては地域で働く方々を外部講師として招き、学習の幅を地域に広げていく。特に、令和8年4月にオープン予定の多機能型福祉施設「てらすテラス」の運営会社理事長に講話をいただき、当施設に設けられる地域交流スペースを中高生の居場所「ユースセンター」として活用するための作戦会議を実施した。継続的に当施設と生徒会活動（地域ボランティアなど）が連携することで、自分たちの意見が地域に反映されることを実感し、自分たちが地域を作っていく自覚を持つよう学習を進めていく。各教科でも総合学習との繋がりを意識し、「教科授業⇔総合」を行き来しながら良質な授業を生徒に提供していくことを目標にしている。

総合的な学習の時間 教科横断型の探究学習											
生徒会本部・専門委員会（生活・文芸・図書・保体・美化・給食・広報・JRC・応援）											
国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保体	技術	家庭	道徳	特活
三角ロジック プレゼンの仕 方、短歌、本 の帯づくり	地理、 気候変動、 SDGs、 権利学習、 国際理解	統計学 分析法	グラフの分 析法、 環境学習	国際理解、 表現力	ボランティア 合唱	チラシづく り	心肺蘇生法、 AED、 防災減災、 ジェンダー		調理実習 防災減災、 防災食、 ジェンダ ー、人権	多価値項目	生徒会活 動、 生徒会行事 学級活動 学年行事

(2) 生徒観

2学年の生徒は、1年次に「多種多様に関わり合いながら成り立っている地域の社会人との触れあいを通して、自分自身の生き方に関わることを理解する」ために職業インタビューや社会人講話を行い、「人はなぜ働くのだろうか」「社会人って何？」をテーマに考えた。複数の多様な社会人に触れること

で、社会人は単に働いて給料をもらったり、自立して誰かを養ったりする人のことだけをいうのではないことに気づいた。社会人とは人に喜びを与える人、社会に貢献している人、お互いに助け合って生きている人だという考えが生まれ始めた。

2年次は「未来の人も豊かな暮らしをつくる『社会人って何?』」をテーマに、豊かな暮らしとは? 誰にでも共通する豊かな暮らしがあるのか? など、社会人が豊かな暮らしをどのように創っているのかを考えていく。また、SDGsの視座を学び、多角的・多面的に物事を捉える方法を学ぶことで「誰にとっても」の視点を持ち、社会人としての生き方を考えられるようにしていく。総合的な学習の時間だけに留まらず、特別活動(体育祭や学年行事)でも「誰もが楽しめる」ものを創造することで、学校生活の学びの共通点を感じながら総合学習で養いたい資質・能力との関連を図り、確かな定着を図る。また、生徒会活動を引き継ぐ時でもあるため、総合的な学習の時間だけでは考えたことを「行動化」が図りにくいという課題に対し、特別活動(生徒会活動や学校行事)で行動化することを目指すことで生徒の意欲を喚起する。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、オリエンテーションでねらいを丁寧に説明し、1単位時間ごとのねらいを明確に伝え、振り返りシートに毎時間考えや感想を言語化することを積み重ねる。地域の人材との交流や体験を多く設定することで、生徒の視野を紙面や学校内だけでなく、地域社会に広げていく。

総合的な学習の時間の探究的学習では、「課題設定→情報収集→まとめ・表現(実行)→整理・分析→まとめ・表現(実行)」の「整理・分析→まとめ・表現(実行)」の行動化をする機会確保が難しいことが課題であったため、特別活動(生徒会活動)で行動化することを考えた。中学生として等身大で地域貢献することや、学校社会の中で生徒会活動を「自分ごと」として捉え、「企画し広報すること＝行動化」「参加・賛同すること＝行動化」であることを共有し、生徒の考えや活動を価値付けすることで生徒の自信につながるようにする。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

相互性(地域愛・地球市民意識)：自分の地域を大切にしながら、地球全体の視点を持つ心

公平性：多世代の誰もが尊重され、機会が平等に与えられる社会を目指す心

連携性：分け隔て無く、他者と協力する力

責任性：自分の行動が社会や地球に与える影響を考える姿勢

・本学習で育てたいESDの資質・能力

批判的に考える力(クリティカル・シンキング)

多様な社会人の職業講話を通して、今までの自分の考えや価値観を問い直す力。

多面的・総合的に考える力(システムズ・シンキング)

国際交流やインクルーシブな地域交流を通して異なる文化や考え方に触れることで、自分以外の多方面から物事を捉えそれらを理解し、共生しようとする力。

未来像を予測して計画を立てる力

多様な「社会人」の姿と自分たちにできることを考え行動することが社会や地球に与える影響を考える力。

・本学習で変容を促すESDの価値観

人権・文化を尊重する

国際交流やインクルーシブな地域交流を通して異なる文化や考え方に触れ、それらを理解し共生しようとする

幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

みんなにとっての豊かさ・幸福感の追求をしようとする

・達成が期待されるSDGs

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを



4. 単元の評価規準

(ア)知識・技能	(イ)思考・判断・表現	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
①職業には様々なものがあること、職業を選ぶ価値観にも様々なものがあることを理解している。 ②どの職業においても、人と人との関わりや職業どうしの関連が欠かせないことを理解している。	①「社会人とは何か」を考える上で、どんなことを知りたいのかを明確にしている。 ②誰に聞けば、何を調べれば課題を明確にできるのかを見通している。 ③収集した情報をもとに、いろいろな職業や社会との関わり方、社会貢献などについて、特徴を見出したり、一般化したり、比較して、さらに探究したい点を見出している。 ④学習前後の自分の変容と、その根拠がわかるようにまとめている。	①将来社会人になるにあたり、自分の強みや改善点を把握し、他の人の考えを受け入れている。 ②実社会と実生活との関連を見出し、自己の生き方を考え、夢や希望を持っている。

5. 単元の指導計画（全13時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価（△）
第1部	○総合×生徒会活動オリエンテーション ・みんなの考え&行動企画とSDGsの17のゴールからの見方、考え方について ・「こんな学校を創りたい」話し合い活動	1年次の総合的な学習の時間で学んでいたことを振り返り、2年次への繋がりを理解できるよう、PPを利用して視覚的にも分かりやすくする。	△（イ）①
	○SDGs付箋紙×山形新聞を読んでもよう	多角的なSDGsの視座に触れられるように助言する。	△（イ）③
	○山形版SDGsシミュレーションカードゲーム (元SDGs for School認定エデュケーター佐藤朋子氏作)	持続可能性を追求する際の社会の構造と自分の選択が社会に与える影響を体感できるようにする。	△（ウ）①
第2部	○体育祭 学年種目 「誰もが楽しめる種目づくり」	生徒会行事（特別活動）で実施	△（ウ）②
	○「体育祭学年種目×SDGs付箋紙」	生徒会行事（体育祭）と総合での学びをつなげるため、「SDGsを行動指針にする」の具現化を図る。種目創りをした生徒が「誰もが楽しめる種目を創造する」を実現しようとしていることを、多くの生徒が価値づけられるようにする。	△（イ）③ 学活で実施
第3部	○地域の社会人講話③ 社会福祉法人ヴォーチェ理事長 佐藤菜々子氏、土屋しお美氏来校南沼原小跡地のプロジェクト講話	ほとんどの生徒が数年間通っていた南沼原小学校の建て替えに伴う跡地にできる地域の居場所「てらすテラス」を発展させる「ゆめをカタチにプロジェクト」に取り組むヴォーチェ（地域の会社）の理念や取り組みを学ぶ。	△（ア）②

	○ワークショップ「やまがたユース基地セッション in 山形十中」てらすテラスの「地域交流スペース」を心許せるみんなの居場所にするには…ブレインストーミング	SDGs『“誰もが”心許せる』を重視しながら考える。「自分がやりたい」「自分がしたい」「自分にとっては」を超えていけるように助言する。	△(イ)③
	○地域の社会人講話④ 8名の多彩な社会人から選択制で講話いただく。	多様な社会人の生き方や職業観に触れ、「社会人って何？」を改めて考える。視点を持って、次につながる質問力をつけられるよう、質問作成カードを提案する。	△(ア)①
第4部	○学校社会の社会人として何をしたいのか、何ができるか…12枚のkey wordsカードから3枚を選んで生徒会企画を考えるブレインストーミング	生徒会役員選挙に向けて、立候補者たちの想いに触れ、生徒会会員＝学校社会での社会人としての自覚を得られるよう助言する。	△(ウ)①
	○生徒会企画ビブリオバトルに向けて 高校生の探究チームとの交流(山形中央高校2年生来校 探究学習「ビブリオバトル」体験会および「全国中学校ビブリオバトル2025山形県大会」開催12/7に向けて宣伝活動)	年齢の近い先輩の視点や行動力に触れ、等身大の自分たちにも社会人としてできることがある可能性を考えるきっかけにする。	△(ア)② △(ウ)②
	○図書委員会企画ビブリオトーク ビブリオバトルの前段階として試行。 来年度の生徒会活動につなげる。	大きな企画立案、実施の前には小さな一歩があることを体験する。単発的な取り組みではなく、次につながることを意識づけする。	△(イ)②
	○生徒会企画 校外外でのボランティア実施	落ち葉清掃、雪かき、赤い羽根募金、地域清掃、使用済みカイロ回収 etc.	△(ウ)②
第5部	○社会人講話③④の講師の方々とSDGsとの関連を考えながら「社会人って何だ? ver.3」まとめる。 ・SDGs達成に向けた地域社会や企業の取り組み(企業・職種別)を調べ、社会人講話で感じ得たことを深める。 ・中学卒業後の進路を見据え、高校調べをする。	・多様な働き方や企業の社会貢献を調べ、興味を広げ、多面的・多角的な視点＝SDGsの視点から考えたことをPPでプレゼン資料作成する。 ・SDGsの視点で質問設計をし、次の探究課題を見出す。ex. 人権、文化、歴史、環境、経済、街づくり、etc. ・高校卒業後やその先の社会人として生きていく自分をイメージして進路先を考えられるよう助言する。	△(ア)① (ア)②
	○東京修学旅行(テーマ別研修) 歴史文化、自然科学、スポーツ文化、芸術文化、経済(街づくり)の5つのテーマから選ぶ。	・個人の興味関心に従ってテーマを選び、班編制を行う。 ・選んだテーマに合った訪問場所を調べ、班メンバーとSDGsと関連づけながら合意形成の上でコースを決める。	△(イ)③ (ウ)②
	○アクションプランづくり 「社会人としての私」宣言 ・生徒会活動でどう行動化するのか自分のアクションプランを考える	自分の価値観や将来の目標とSDGsを関連づけ、将来の自分を描けるよう助言する。今できることを考え、実行できそうなことを具体的に宣言できるよう助言する。	△(イ)④ (ウ)②

